

晃陽地域学校園（晃陽中学校、富屋小学校、篠井小学校）

1 研究テーマ 「基礎・基本の定着を図る」


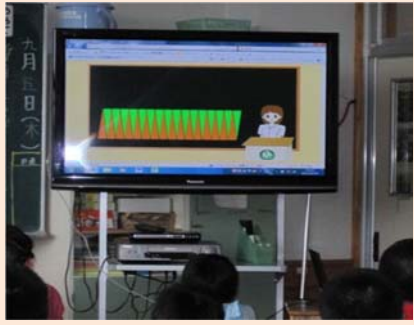

2 研究の内容

本地域学校園は自然にめぐまれ、歴史的な史跡遺産も多くある、のどかな地域である。子どもたちは素直で明るく、あいさつもよくできる。また、小学校からの小集団の中で築かれた穏やかな人間関係を中学校でも継続している。「仲がよく、いじめや排他的な傾向がない」といった良い面がある。しかし、「自主性やお互いをより高めあう意識、困難に立ち向かう気持ち」といった面が不足している。



学習に関しても同様な傾向があり、いい意味での競争心がなく、自主的に取り組んで学力を向上させたいといった意欲に欠ける。また、家庭学習が十分とはいえ、基礎・基本の定着が不十分な児童生徒の割合が多い。

そこで、児童生徒の学力向上と学習習慣の定着を目指し、小中学校教職員の共通認識のもとに、まずは児童生徒の基礎・基本の定着を図れるよう、日々の授業の中で指導の工夫改善を実践している。

(1) 各校の実践

		
<p>晃陽中学校 1年：国語（少年の日の思い出） 各単元の新出漢字については、授業の最初にミニテストを繰り返すことで、定着を図っている。</p>	<p>富屋小学校 6年：算数（円の面積） 円を等積変形したものを、テレビ画面に映し出し、より分かりやすくして説明している。</p>	<p>篠井小学校 2年：算数（1を分けて） 基礎基本の定着を図るために、TT授業（3人体制）により、個に応じた学習支援を実践している。</p>

(2) 小中合同研修会

	<p>8月28日（水）富屋市民センター 演題：小中一貫教育の進め方 講師：宇都宮大学教授 松本 敏先生 学習習慣の定着・効果的な指導方法について、実践地域の例を基に教職員側の視点に立って、示唆に富む内容の講話を、1時間にわたっていただきました。</p>	
---	--	---

3 まとめ（成果と課題）

児童生徒の学力向上については、十分な変容を見ることができなかった。基礎・基本の定着が不十分であり、今後も力を入れていくべき部分であることを地域学校園全体で共通認識できたこと、また、さまざまな方法で学習面の基礎・基本を高められることがわかったことは成果と言ってよいと思われる。学習習慣の定着については、各校が自主学习ノート等の活用を通して家庭学習の時間を確保する試みを実践しているので、徐々に成果が現れていることを感じている。

今後は、小中学校でそれぞれが独自に行っている手法を一本化し、小学校から中学校へ進むにあたっての溝を少なくし、9年間の中で計画的に基礎・基本の定着を図れるように取り組んでいきたい。また、家庭の協力が不可欠であることは明白なので、学校と家庭が共に子どもたちを育てていくという意識を高めていくことが重要だと思う。